

論文投稿の手引き

この度は、日本 CT 検診学会への論文投稿をご検討いただき、誠にありがとうございます。皆様におかれましては、日々お忙しい中で研究・執筆なさっていることに敬意を表します。

皆様が円滑に論文投稿を行えるように、日本 CT 検診学会の「論文投稿の手引き」をまとめておりますのでお役立てください。

論文投稿の手引き

1. 査読者と著者と編集委員会は、互いに敬意と感謝の気持ちをもって論文の作成に共同で取り組みます。
2. 著者同様に査読者および編集者も、医学の発展のために、中立性を保ちつつ、善意と厚意にて本論文に関わっていることをご承知おきください。
3. 投稿規定をご精読ください。
4. 原著論文の定義は、【備考 1】を参照してください。
5. 投稿ファイルは、原則として本文と図表を分けてご投稿ください。（本文中に埋め込む方法もありますが、1つのファイルのデータ量が大きくなるとファイルを分割送付しなければならない場合があります。また、最終的に編集委員会でレイアウトが変更される可能性があることをご承知おきください。）
6. 図表は、JPEG や TIFF などで作成すると、画質を保ちつつデータ容量を抑えることができます。逆に PICT などで作成すると、データ容量が膨大になる恐れがあります。個人を特定できる情報を削除して提出してください。
詳細は、【備考 2】をご参照ください。
7. 我々、編集委員会と査読者は、著者毎に、背景・職種・環境などがさまざまであることを承知しています。そのため、研究のテーマや方法や論旨のまとめ方や書き方使用する用語などに多様性があることを認識し、それを尊重しています。
8. 同様に、著者は論文のテーマに対しての専門性が無い方にも伝わる表現、構成を意識してください。
9. CT 検診分野の研究では、病理学的な結果が出ていない、対象者の設定にバイアスがあるなど、根拠が十分でないことを踏まえ、研究のゴールを高く見積もり過ぎないようにします。
10. 本研究の主たる目的を明確にし、それが読者に簡便に理解してもらえるように、最初に論文の大枠を立てて（例えば、タイトル・目的・結論を 1～2 行で書いて、それに一貫性があるかを確認するなど）から、論文全体の肉付けをするとまとまりが出てきます。
11. 対象・方法は、読者が研究内容を理解するだけでなく、他の研究者による追試がなされる場合に必要な情報です。同じことが再現できるような情報を記載して下さい。CT 検診においては、対象者情報や撮影条件は重要です。

12. 倫理的配慮を十分に行ってください。
 - (ア) 資料の集め方、データ利用について、被験者には十分な説明を行っているでしょうか？
 - (イ) 個人を特定できないように、情報の収集をしているでしょうか？
 - (ウ) 情報の保管に不備はないでしょうか？
 - (エ) 投稿する画像やデータに機微な個人情報が含まれていないでしょうか？（特にエクセルのグラフを作成する場合には、別シートに個人名などのデータが残されている場合があります。）
13. 結果は、客観性のあるものを掲載してください。
 - (ア) 意図的に有利なデータのみを扱っていないでしょうか？
 - (イ) 解析には適切な手法が用いられているでしょうか？
14. 考察には、編集委員会・査読者は過度の介入は行いませんが、明らかに倫理的に問題がある、方法に誤りがある、検証や解釈に問題があると判断される場合には、改善を求めることがあります。
15. 査読結果には、感謝の気持ちを込めて丁寧に回答・対応してください。
16. 査読に対する回答は、論文の主旨、ページ数の上限、修正にかかる時間などを考慮し、すべての指摘に回答し得ないことがあります。その場合、査読返信に「ご指摘の〇〇には、××の理由のために今回対応することができない」といった旨を述べてください。また、必要に応じ、今回対応できない部分に関しては本論文のリミテーションとして本文中に記載するなどの対応をしてください。
17. 投稿前に、共著者に原稿の確認を受けてください。
18. 論文の種類は、原則著者の意向を尊重しますが、編集委員・査読者により別の種類を推奨することがあります。
19. 高度に専門性の高い論文は、別の雑誌への投稿をお勧めすることがあります。
20. 原著論文の二重投稿は原則禁止です。ただし、他誌の編集委員会などの許可があり、且つ本誌での掲載する益が明らかである場合には、当編集委員会の許可があればこの限りではありません。
21. 投稿期限や査読への回答期限を厳守し、やむを得ない事情があるときには、速やかに事務局に連絡してください。
22. 投稿の規定などについてのご意見やご質問は、遠慮なく事務局にお伝えください。

【備考 1：論文の種類】

日本 CT 検診学会誌の原稿は、CT 検診に関するもので、下記の種類に分類する。

- a) 原著論文、b) 速報、c) 技術、d) 症例報告、e) 特集、f) 総説、g) 資料、h) 報告・意見、i) その他

論文 種類	定義
原著 論文	<p>他誌に発表されていない知見を有し、原著にする意義があると著者が判断する論文。</p> <p>補足：CT検診に関わる研究、開発、調査で、独創性、新規性があり、目的、対象、方法、結果、考察、結論で構成されているもの。</p> <p>補足：原著論文は、著者らが自らの資料を基に新たに論じるものです。新規性があることは、原著論文として評価するポイントですが、これまでの追試であったり、自らの資料の開示のみとなったとしても、目的、対象、方法、結果、考察、結論で構成され今回の結果に合理的な考察がなされ今後の展望が述べられている場合は、原著論文に該当します。</p>
速報	<p>他誌に発表されていない知見を有し、速報する意義があると著者が判断する論文。</p> <p>補足：研究の途上であり、十分な結果が得られておらず、考察・結論を述べるのが難しいものや、原著論文の形式を簡略化し事象の発表のみを行うものを含みます。</p>
技術	<p>他誌に発表されていない知見を有する技術の報告。</p> <p>補足：目的、対象、方法、結果、考察、結論で構成されているものは原著論文に該当します。</p>
症例 報告	<p>CTでの検診に関連した興味ある症例の紹介で、他誌に報告されていないもの。</p> <p>補足：実際の経験症例を取り上げて、病歴、身体所見、検査データや画像検査所見に基づいて、診断、治療、転帰、対応などについて掲載された記事です。目的、対象、方法、結果、考察、結論で構成されているものは原著論文に該当します。</p>
特集	<p>決められた主題に基づき執筆される編集委員会からの依頼論文。</p>
総説	<p>既に他誌へ原著として投稿した論文に関連した内容の論文。他誌へ掲載した図表などを転載する場合には、掲載誌の編集委員長の許可が必要となる。</p> <p>補足：特定の分野や主題について、関連文献、資料に基づいて総括的に論評した記事も含みます。レビューともいいます。</p>
資料	<p>研究、技術および症例に関する資料・調査結果など。</p>
報告・ 意見	<p>当研究会関連部会・委員会報告、本研究会活動全般および本誌掲載論文に対する意見や批評。</p>
その 他	<p>上記に分類できないもので、編集委員会が必要と認めたもの。</p> <p>補足：ディスカッション（壇上討議）、対談、鼎談や質疑応答の記録などや、図説（説明を付記した図表）による記事などです。</p>

【備考 2：図表についての原則】

図表には個人を特定できる情報を掲載しないでください。エクセル形式などでは、ファイル内に元データが残されていることがあり、情報漏洩のおそれがありますのでご注意ください。図は 150～350dpi の解像度を基準にしてください。本誌で扱う主な画像は、低線量 CT 検診のグレースケール画像であり、CT 画像 1 枚当たりの大凡のデータ容量は、JPEG・TIFF で 3MB 程度と想定されます。

病理のカラー標本の場合は、6MB 程度と想定されます。

グラフは、画像として作成してください。

表は、レイアウトを整える際に事務局で書き起こすことがあるため、エクセル形式で作成してください。

大容量のデータの添付が必要な場合やご不明な点は、事務局にお問い合わせください。